

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7  
災害に強い県土づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

河川課長 星野 充孝

電話番号

0852-22-5195

事務事業の名称	河川維持修繕事業	
目的	(1) 対象	流域住民
	(2) 意図	適正に管理することにより流域住民が安心して暮らせるようにする
事業概要	県河川管理施設の機能を良好な状態に保つため、特定構造物改築事業及び県単河川修繕事業を実施する。 長寿命化対策として水門、樋門、排水機場の222施設のうち早期及び緊急措置段階である健全度Ⅲ、Ⅳの192施設について5年間で実施する。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	護岸等の修繕箇所数	目標値		60.0	60.0	60.0	60.0	箇所
	式・定義	年毎の護岸等の修繕箇所数	取組目標値						
			実績値	64.0	74.0	87.0			
			達成率	-	123.4	145.0	-	-	%
2	指標名	水門・樋門・排水機場等の長寿命化対策施設数	目標値		77.0	116.0	154.0	192.0	施設
	式・定義	水門・樋門・排水機場等の長寿命化対策済施設数	取組目標値						
			実績値	35.0	43.0	111.0			
			達成率	-	55.9	95.7	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	1,186,490	1,588,985
うち一般財源 (千円)	797,387	1,011,586

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

護岸等の修繕は、巡視・点検の結果や地元等からの要望のうち、優先順位の高い箇所について工事を実施している。また、長寿命化対策については、点検による健全度から判断し、計画的に工事を実施している。

## 6. 成果があったこと(改善されたこと)

平成29年度は、護岸等の修繕については、目標値60箇所に対し達成率145%となり、目標を達成した。  
長寿命化対策についても、ほぼ計画通りに対策を進めることができた。

## 7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

### ①困っている「状況」

限られた予算の中、修繕要望箇所が多く全てに対応することが困難。  
また、河川内の伐採、除草要望が数多く寄せられているが対応が追いつかない状況。  
長寿命化対策においては、年数経過に伴い老朽化施設の増加、対策箇所の拡大等が生じ、費用が膨らむ傾向にある。

### ②困っている状況が発生している「原因」

伐採、除草については、高齢化や過疎化などによりボランティアや河川浄化事業(市町村からの委託団体)の担い手が減少してきている。  
長寿命化対策については、交付金事業である特定構造物改築事業の採択要件を満足する施設が11施設と少なく、ほとんどを県単河川修繕費にて対応せざるを得ない。

### ③原因を解消するための「課題」

伐採、除草について、作業員の負担軽減のため、作業の省力化、効率化が求められる。  
特定構造物改築事業で採択されない小規模施設に対する交付金制度の新設又は拡充。  
効果的な事業の執行、特に長寿命化対策については、職員の技術力(健全度判定、工法選定、対策時期の見極め等)の向上が必要。

## 8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

伐採、除草作業のコスト縮減、省力化、効率化に向けた施策の検討を進め、実効性の確認や課題抽出のための試行を行う。  
H30より公共施設等適正管理推進事業債が拡充され、河川管理施設の長寿命化を図る地方単独事業も対象となったことから、これの適用に必要な個別施設計画(長寿命化計画)の策定を進める。  
長寿命化対策に関する技術力向上のための研修会を継続実施する。